



こんにちは

村田 けい子 です

2020.9.11
№268

みなさんのご意見・ご要望をお寄せ下さい。フェイスブックやっています。

移動事務所 090-9144-8534

発行/日本共産党立科町議会議員 村田桂子 立科町塩沢1483 ☎0267 (56) 2868

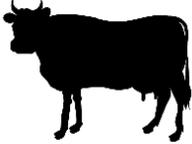


「蓼科牛」をどう守るのか！？

両角町長、と場の「譲渡・廃止」に反対せず

質問の冒頭で、「と場の譲渡・廃止の方向」が採決されたときに「町長は反対したのか」と確認したところ「賛成した」との回答。理由を問うと「連合長を補佐する副連合長だから」とのこと。立科町長の立場はどうなったのでしょうか。

ともあれ、6月29日の佐久広域連合の首長会議では「全員賛成」で譲渡・廃止の方向が決定。大幅な赤字が続いていることが最大の理由。



6月29日に方向が出され、その日に採決！生産者への説明は後回し！

町長が「譲渡・廃止の方向」を知ったのは、6月29日その日であったことが明らかに。その日のうちに採決することになぜ反対しなかったのか。生産者や関係者に説明したり、意見を聞くことをなぜしなかったのか、少なくともその日のうちの採決に反対すべきでなかったか。と問い詰めました。

生産者への説明会は9月9日、しかも生産者が要求してようやく実現したもの。

「佐久のと場」以外で「蓼科牛」が守れるのか。

- ・佐久食肉センター…佐久地域で生育された牛のと畜処理を行っている。牛は「蓼科牛」のブランドで、ニチレイフレッシュが販売を行っている。3つのセンターで一番設備が新しい。(昭和56・57年建設)
- ・と場に搬入された牛は806頭(廃用牛200頭含む/昨年度)
立科町からは450頭、2018年度は1,057頭(廃用牛200頭)
- ・立科町の畜産農家11戸は佐久全体29戸の35%を占める大きな役割を果たしています。

・松本食肉センター

全農が全面的に経営し、「農協直販」が販売。佐久地域の豚、牛の3分の1を松本に運び処理、販売をしている。「信州アルプス牛」の名で販売。搬入された牛は488頭。佐久地域からも豚を集め1万頭を超える。佐久と場を廃止したら、受け入れる余地があるのか。処理頭数は一番多く、全処理量の6割を占める。町からは490頭搬入。

・北信(中野)食肉センター

マルイチ産商のグループ会社 大信畜産工業がと畜場を経営し販売をマルイチのグループ会社で手掛けている様子。「しらかば若牛」の名で販売、搬入された牛は462頭。町からは443頭。豚の搬入は2,114頭。

＜蓼科牛の生産額＞
立科町の畜産農家
11戸/679戸 1.6%

畜産全体 6億5千万円
うち肉用牛 2億9千万円
／農業生産額24億1千万円

わずか1.6%の畜産農家が
12%の販売額を生み出している。町の基幹的産業の一つ。



発見！
組みひも編み機

今週のパチリ

今週13日(日)菊屋さんの前で食堂「はじまるカフェ」オープン。芦田宿に面した場所に五無齋さんの紹介と手仕事名人芸を展示する場所にしよう準備中に、階段裏からこれを発見！この家の住人が趣味で取り組んでいたのでしょうか。お人柄がしのべれます。西塩沢の女性による帯紐も展示します。覗きに来てね。

佐久のと場存続、なんとしても！

立科町が先頭になって新たな運営母体を作るよう呼びかけ佐久浅間農協や販売会社などに働きかけ3セクで経営を。県や国の補助を取り付ける方向でと求めました。